

子どもが文化を担う

熊本県教育委員 吉井恵璃子

地元の小中学生を相手に、伝統芸能教室を始めて12年。今まで何とか繋いできたものの、児童数が減り、活動も困難になってきました。現在、地元の小学生は14人、その中で参加者は、半数くらいまで減りました。以前は90%近くが参加してくれていたのですが…。今は高校生にまで範囲を広げ、何とか続けています。

先日、小1の女の子が、初めて参加してくれました。すると小6のWくんが、話しかけてきました。

「あのね、他のところで地元の文化を体験するってほとんどできないことだから、ここに来られることをありがたいことだと思って、一生懸命やろうね」

彼の言葉は、心にずしんと響きました。

大人が想像だにしていなかったしっかりした考えを、わずか12歳の男の子が持っていたのです。

彼は、6年間、同級生のいない学校生活を送ってきました。それでも毎日、他の学年の子ども達と楽しく過ごし、隣の校区の野球クラブに入り、たくさんの友達をつくり

ました。そして6年になった今では、水俣市の子ども議会で議長を務めてしまうほどの子になりました。

永く子どもに関わっていると、その成長が見えてきます。

この地区の子ども達は、周囲に見守られるだけでなく、文化の担い手として貢献してきました。既に地域を支える一員なのです。

地域を支えることは、きっと子どもたちの成長の一助となるでしょう。そう信じて、今後も近所のおばちゃんとして、子ども達を見続けていこうと思います。



* 吉井委員は、平成26年10月に就任されました。現在、県の教育委員は6名で構成されています。

* このコーナーでは、教育委員からの寄稿を随時紹介します。